# 個人投資家様向けIRセミナー
# ご説明資料

2022年7月22日

アステナホールディングス株式会社
（東証プライム市場：8095）

Diversify for Tomorrow.

ASTENA
HOLDINGS

# 心よりお見舞い申し上げます。

６月20日、21日に石川県能登地方において最大震度６弱の地震がありました。
この地震により、被害にあわれた方々には心よりお見舞い申し上げます。
当社従業員につきましては、全員の無事が確認されております。

## 震度６弱の地震

## 当社の被害状況

※壁紙が剥がれる軽微な損傷

# 決算概況（2022年11月期第2四半期）～前年同期比～

売上高は旧会計基準ベースでは前年同期と同水準。利益はいずれの段階利益においても前年実績を下回る結果に。

| | 当期実績 | 当期実績<br>旧会計基準組替 | 前年同期<br>増減額・増減率 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 249.3億円 | 360.2億円 | △2.2億円<br>（△0.6%） |
| 営業利益 | 7.2億円 | 7.2億円 | △7.7億円<br>（△51.8%） |
| 経常利益 | 8.3億円 | 8.3億円 | △7.3億円<br>（△46.9%） |
| 親会社株主に帰属する<br>四半期純利益 | 9.3億円 | 9.3億円 | △0.4億円<br>（△4.3%） |
| EBITDA | 17.5億円 | 17.5億円 | △5.7億円<br>（△24.6%） |

※前年同期は旧会計基準

# セグメント別業績（2022年11月期第2四半期）～前年同期比～

旧会計基準ベースでは、ファインケミカルと化学品は増収。HBC・食品以外は減益。

## ファインケミカル事業

| | 当期実績 | 当期実績 旧会計基準組替 | 前年同期 増減額 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 75億円 | 120億円 | +3.9億円 |
| 営業利益 | 4.7億円 | 5.3億円 | △1.8億円 |

※前年同期は旧会計基準

## HBC・食品事業

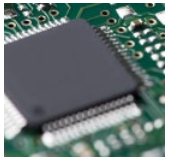
| | 当期実績 | 当期実績 旧会計基準組替 | 前年同期 増減額 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 72億円 | 138億円 | △1.7億円 |
| 営業利益 | △0.6億円 | △0.6億円 | +2.8億円 |

※前年同期は旧会計基準

## 医薬事業

| | 当期実績 | 当期実績 旧会計基準組替 | 前年同期 増減額 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 58億円 | 58億円 | △6.4億円 |
| 営業利益 | 3.5億円 | 2.8億円 | △6.3億円 |

※前年同期は旧会計基準



## 化学品事業

| | 当期実績 | 当期実績 旧会計基準組替 | 前年同期 増減額 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 43億円 | 43億円 | +2.0億円 |
| 営業利益 | △0.3億円 | △0.3億円 | △2.4億円 |

※前年同期は旧会計基準

旧会計基準組替・HD化に伴う影響除外

# セグメント別業績（2022年11月期第2四半期）～前年同期比～

HD化に伴う影響（本社費等）を除外すると、いずれの事業も減益。

## ファインケミカル事業

| | 当期実績 旧会計基準組替 | 当期実績 旧会計基準組替 HD化影響除外 | 前年同期 増減額 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 120億円 | 120億円 | +3.9億円 |
| 営業利益 | 5.3億円 | 6.1億円 | △1.0億円 |

※前年同期は旧会計基準

## HBC・食品事業

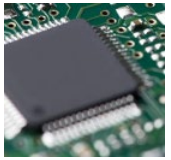
| | 当期実績 旧会計基準組替 | 当期実績 旧会計基準組替 HD化影響除外 | 前年同期 増減額 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 138億円 | 138億円 | △1.7億円 |
| 営業利益 | △0.6億円 | △3.7億円 | △0.2億円 |

※前年同期は旧会計基準

## 医薬事業

| | 当期実績 旧会計基準組替 | 当期実績 旧会計基準組替 HD化影響除外 | 前年同期 増減額 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 58億円 | 58億円 | △6.4億円 |
| 営業利益 | 2.8億円 | 3.8億円 | △5.3億円 |

※前年同期は旧会計基準



## 化学品事業

| | 当期実績 旧会計基準組替 | 当期実績 旧会計基準組替 HD化影響除外 | 前年同期 増減額 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 43億円 | 43億円 | +2.0億円 |
| 営業利益 | △0.3億円 | 1.7億円 | △0.3億円 |

※前年同期は旧会計基準

# 主な営業利益増減要因 ～前年同期比～

有機EL材料製造受託が増益に影響したが、スペラファーマの売上減、外部要因が減益に影響。

## ファインケミカル事業

| | |
|---|---|
| 有機EL材料製造受託 | ＋0.7億円 |
| スペラネクサス売上増 | ＋0.9億円 |
| スペラファーマ売上減 | △1.9億円 |
| 外部要因<br>（原油・原料・電力料高騰、為替影響） | △0.7億円 |

合計額
△1.0億円

# 主な営業利益増減要因 ～前年同期比～

不採算取引の減少とグループ内事業ポートフォリオ組替が増益に寄与する一方、
通販化粧品は広告宣伝費が増加。

## HBC・食品事業

| | |
|---|---|
| 不採算取引減少 | ＋0.3億円 |
| グループ内事業ポートフォリオ組替 | ＋0.7億円 |
| 広告宣伝費増加（通販化粧品） | △1.0億円 |
| その他 | △0.2億円 |

合計額
△0.2億円

# 主な営業利益増減要因 ～前年同期比～

自主回収費用が無くなる一方、佐倉工場の売上減、蒲田工場の稼働率低下等の要因で減益。

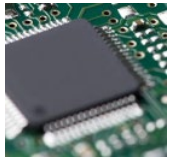
## 医薬事業

| | |
|---|---|
| 自主回収費用（前期一過性） | ＋1.2億円 |
| 佐倉工場売上減 | △2.9億円 |
| 蒲田工場稼働率低下 | △2.1億円 |
| グループ内事業ポートフォリオ組替 | △0.7億円 |
| 外部要因（原料・電力料高騰） | △0.4億円 |
| その他 | △0.4億円 |

合計額
△5.3億円

# 主な営業利益増減要因 ～前年同期比～

販売構成の変化が減益に影響。



## 化学品事業

| | |
|---|---|
| 外部要因（為替影響） | ＋0.2億円 |
| その他 | ＋0.1億円 |
| 販売構成変化の影響 | △0.6億円 |

合計額
△0.3億円

# 2022年11月期通期　連結業績下方修正

通期業績の下方修正を実施。

| | 2022年7月13日<br>公表値 | 2022年1月13日<br>公表値 | 増減額 |
|---|---|---|---|
| 売　上　高 | 500億円 | 500億円 | ---億円 |
| 営　業　利　益 | 10億円 | 17億円 | △7.0億円 |
| 経　常　利　益 | 10億円 | 16億円 | △6.0億円 |
| 親会社株主に帰属する<br>当　期　純　利　益 | 11億円 | 15億円 | △4.0億円 |

# セグメント別業績（2022年11月期通期）～前年同期比～

旧会計基準ベースでは、HBC・食品以外は減益。

## ファインケミカル事業

| | 当期見込 | 当期見込 旧会計基準組替 | 前年同期 増減額 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 136億円 | 226億円 | △2.6億円 |
| 営業利益 | 4.2億円 | 4.8億円 | △9.0億円 |

※前年同期は旧会計基準

## HBC・食品事業

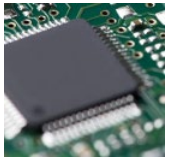
| | 当期見込 | 当期見込 旧会計基準組替 | 前年同期 増減額 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 139億円 | 269億円 | △13.2億円 |
| 営業利益 | 1.1億円 | 1.1億円 | +4.5億円 |

※前年同期は旧会計基準

## 医薬事業

| | 当期見込 | 当期見込 旧会計基準組替 | 前年同期 増減額 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 118億円 | 120億円 | △3.6億円 |
| 営業利益 | 2.0億円 | 2.2億円 | △6.8億円 |

※前年同期は旧会計基準



## 化学品事業

| | 当期見込 | 当期見込 旧会計基準組替 | 前年同期 増減額 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 95億円 | 94億円 | +7.9億円 |
| 営業利益 | 1.8億円 | 1.8億円 | △1.9億円 |

※前年同期は旧会計基準

# セグメント別業績（2022年11月期通期）～前年同期比～

HD化に伴う影響（本社費等）を除外すると、ファインケミカルと医薬が減益。

## ファインケミカル事業

| | 当期見込 旧会計基準組替 | 当期見込 旧会計基準組替 HD化影響除外 | 前年同期 増減額 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 226億円 | 226億円 | △2.6億円 |
| 営業利益 | 4.8億円 | 6.8億円 | △7.0億円 |

※前年同期は旧会計基準

## HBC・食品事業

| | 当期見込 旧会計基準組替 | 当期見込 旧会計基準組替 HD化影響除外 | 前年同期 増減額 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 269億円 | 269億円 | △13.2億円 |
| 営業利益 | 1.1億円 | △1.5億円 | +1.8億円 |

※前年同期は旧会計基準

## 医薬事業

| | 当期見込 旧会計基準組替 | 当期見込 旧会計基準組替 HD化影響除外 | 前年同期 増減額 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 120億円 | 120億円 | △3.6億円 |
| 営業利益 | 2.2億円 | 2.6億円 | △6.4億円 |

※前年同期は旧会計基準

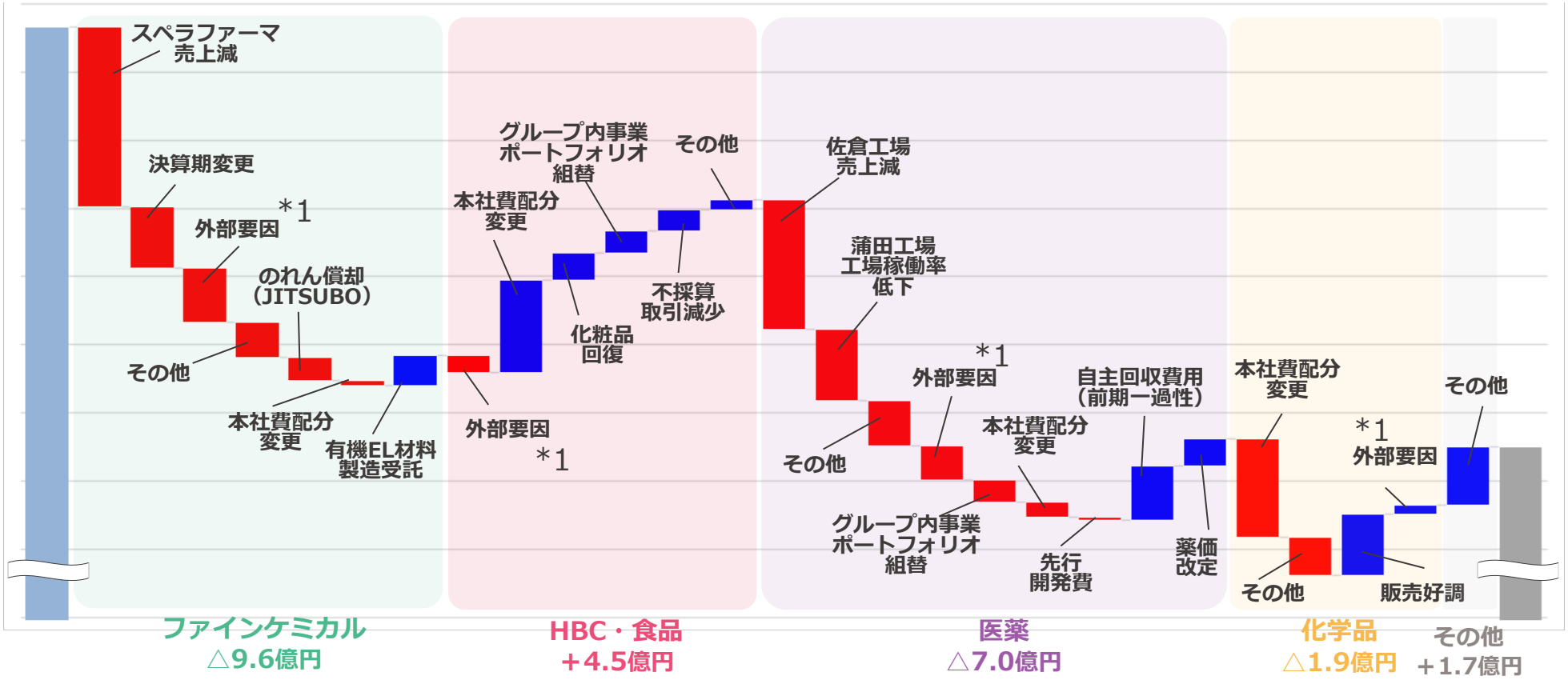
## 化学品事業

| | 当期見込 旧会計基準組替 | 当期見込 旧会計基準組替 HD化影響除外 | 前年同期 増減額 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 94億円 | 94億円 | +7.9億円 |
| 営業利益 | 1.8億円 | 4.7億円 | +0.9億円 |

※前年同期は旧会計基準

# 2022年11月期通期　営業利益減少の要因内訳

主な減益影響は、売上高の減少、工場稼働率の低下、外部要因*1




2021年11月期
実績
22.3億円

2022年11月期
修正予想
10.0億円

*1.為替、原油、原料、輸送コスト等の影響

# 2022年11月期通期　外部要因の影響内訳

マクロ環境変化への対応を進めるも、通期で2.8億円の影響を受ける見込み。

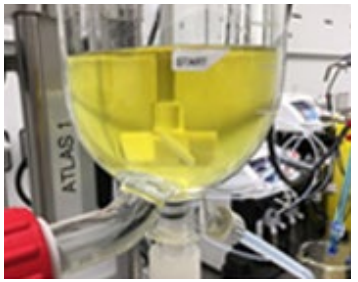
| | 全社 | ファインケミカル | HBC・食品 | 医薬 | 化学品 |
|---|---|---|---|---|---|
| 為替影響 | △2.3 億円 | △1.8 億円 | △0.5 億円 | --- 億円 | △0.1 億円 |
| 電力料上昇 | △0.9 億円 | △0.2 億円 | --- 億円 | △0.7 億円 | △0.1 億円 |
| 原料高騰 | △3.9 億円 | △0.4 億円 | △1.1 億円 | △0.3 億円 | △2.1 億円 |
| 原油高騰 | △1.0 億円 | △0.5 億円 | △0.5 億円 | --- 億円 | --- 億円 |
| 輸送コスト上昇 | △0.4 億円 | △0.2 億円 | △0.2 億円 | --- 億円 | --- 億円 |
| コスト吸収 | +5.7 億円 | +1.5 億円 | +1.7 億円 | --- 億円 | +2.5 億円 |
| 【合計】 | △2.8 億円 | △1.6 億円 | △0.5 億円 | △1.0 億円 | +0.3 億円 |

# 各事業におけるトピックス【ファインケミカル】

スペラファーマ
スペラネクサス
Jitsubo

- 当初計画外の有機EL材料の製造受託
- バイオ分析の新規受託案件増加
  （低分子以外のペプチドや抗体医薬の分析受託）
- MH法の関連材料のグループ内生産計画が進行中

Molecular Hiving™　One-Pot法



# 各事業におけるトピックス【HBC・食品】

イワキ株式会社

maruman

- マルマンH&Bにおける韓国コスメ
  ／自社企画マスクの販売好調

- ICS-net資本参加による
  食品原料プラットフォームへの参入

# 各事業におけるトピックス【医薬】

岩城製薬株式会社

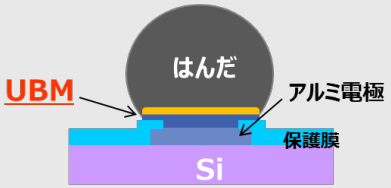
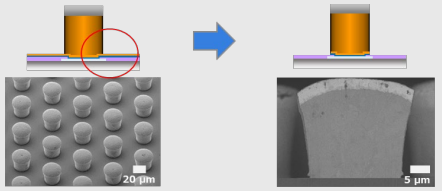
- 薬価改定
- 先発長期収載品「ニゾラール®ローション」の承継
- 「ナビジョン® ／ナビジョンDR ®」の
  ブランドホルダー機能移管

# 各事業におけるトピックス【化学品】

Meltex

TCM 世界に通用するモノづくりと技術の会社 東京化工機株式会社

- 半導体向け表面処理薬品需要堅調
- プリント配線板向けスプレー装置販売好調

| 分野 | UBM (Under Barrier Metal) | シード層エッチング |
|---|---|---|
| 用途目的 | 半導体チップ接合用<br>アルミ電極上へのUBM形成 | 半導体チップ接合用<br>バンピングプロセス |
| |  はんだバンプの断面模式図 |  |

皆さまからお寄せいただいた
ご質問にご回答します

①変更された社名はもうかなり浸透しているのでしょうか。

②テレワークによるマネージメントはうまくいってるのでしょうか。

③岩城製薬佐倉工場㈱について

・岩城製薬佐倉工場㈱の設備投資の進捗状況の
アップデートが可能であれば教えてください。

・医薬事業について「佐倉工場の契約変更」というのは
具体的に何がどうなって利益を圧迫するに至るのでしょうか？

# 岩城製薬佐倉工場㈱における設備投資の進捗状況

岩城製薬佐倉工場株式会社

<注射棟増築部分>

<製剤調製設備>

<製剤充填設備>

④ファインケミカル分野で有機ELが好調とありましたが、
どの様な製品に使われる有機ELなのか差支えなければ
教えて下さい。

⑤中計の数字がさらに遠のいてませんか。打開策を
提示してください。

# 事業戦略再構築の目的

通期の見込みで減収減益となる２事業について、
事業戦略の再構築を図り収益性を取り戻す。

## ファインケミカル事業

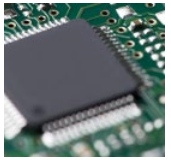
| | 当期見込 旧会計基準組替 | 当期見込 旧会計基準組替 HD化影響除外 | 前年同期 増減額 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 226億円 | 226億円 | △2.6億円 |
| 営業利益 | 4.8億円 | 6.8億円 | △7.0億円 |

## HBC・食品事業

| | 当期見込 旧会計基準組替 | 当期見込 旧会計基準組替 HD化影響除外 | 前年同期 増減額 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 269億円 | 269億円 | △13.2億円 |
| 営業利益 | 1.1億円 | △1.5億円 | +1.8億円 |

## 医薬事業

| | 当期見込 旧会計基準組替 | 当期見込 旧会計基準組替 HD化影響除外 | 前年同期 増減額 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 120億円 | 120億円 | △3.6億円 |
| 営業利益 | 2.2億円 | 2.6億円 | △6.4億円 |



## 化学品事業

| | 当期見込 旧会計基準組替 | 当期見込 旧会計基準組替 HD化影響除外 | 前年同期 増減額 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 94億円 | 94億円 | +7.9億円 |
| 営業利益 | 1.8億円 | 4.7億円 | +0.9億円 |

※前年同期は旧会計基準

# 事業戦略再構築に向けた取り組み

それぞれの課題解決に向けて、必要な投資及び取り組みを実行中

| | | |
|---|---|---|
| ①<br>CMC開発受託の<br>案件数不足 | 低分子以外の<br>モダリティ対応拡大 | ペプチド・核酸・バイオ・遺伝子など<br>新モダリティのCMCに対応する投資 |
| | バイオベンチャーへの投資<br>及びアライアンス促進 | 創薬支援の領域への事業拡大と<br>新モダリティ対応に向けたアライアンス |
| | 特に海外の新薬メーカーに<br>対するMH法の展開強化 | JITSUBOのMH法に関する宣伝活動の<br>より一層の強化、ターゲット化 |
| ②<br>CMC事業とCMO事業の<br>事業シナジー不十分 | ジェネリックメーカーに<br>対する製剤技術提供 | 主としてスペラネクサス社の顧客に<br>対するCMC技術の提供 |
| ③<br>機能の分散 | TAGのグループ内生産化 | MH法によるペプチド作りに必要な<br>中間原料のグループ内生産化 |
| | 製造機能のグループ内<br>機能再編検討 | 分散している機能の再編検討 |
| | 分析・QC機能の<br>グループ内機能再編検討 | 分散している機能の再編検討 |

# 事業戦略再構築に向けた取り組み

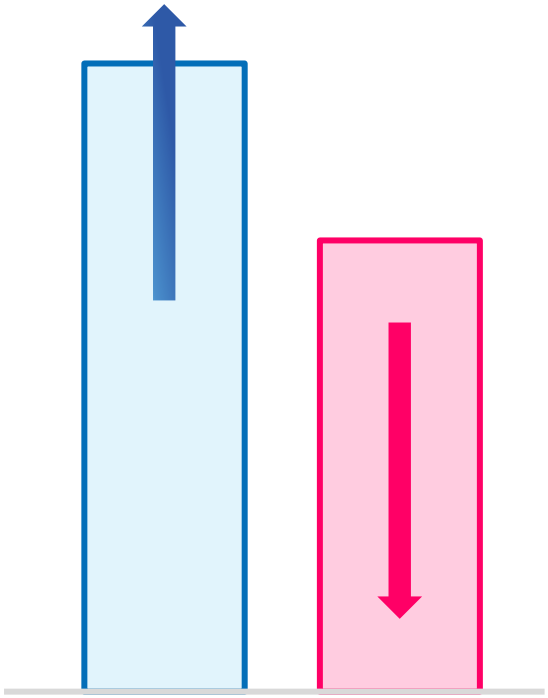
売上増加／費用減少のそれぞれの取り組みを実施中。

短期的取組

## 売上増加に向けた取り組み

- ターゲット顧客への営業活動集中化
- 医薬品近接市場への事業拡大
- 自社開発だけではない新製品上市方法の拡充
- 製剤技術力を活かした受託開発費獲得
- 注射剤CDMO事業への参入
- 薬価改定への対応
- バイオベンチャーへの投資

中期的取組



## 費用減少に向けた取り組み

- 工場生産性の向上（Let's 蒲田向上）
- 補助金等活用による再生可能エネルギー導入
- 原材料調達の一元化
- 生産品目の再配置

短期的取組

中期的取組

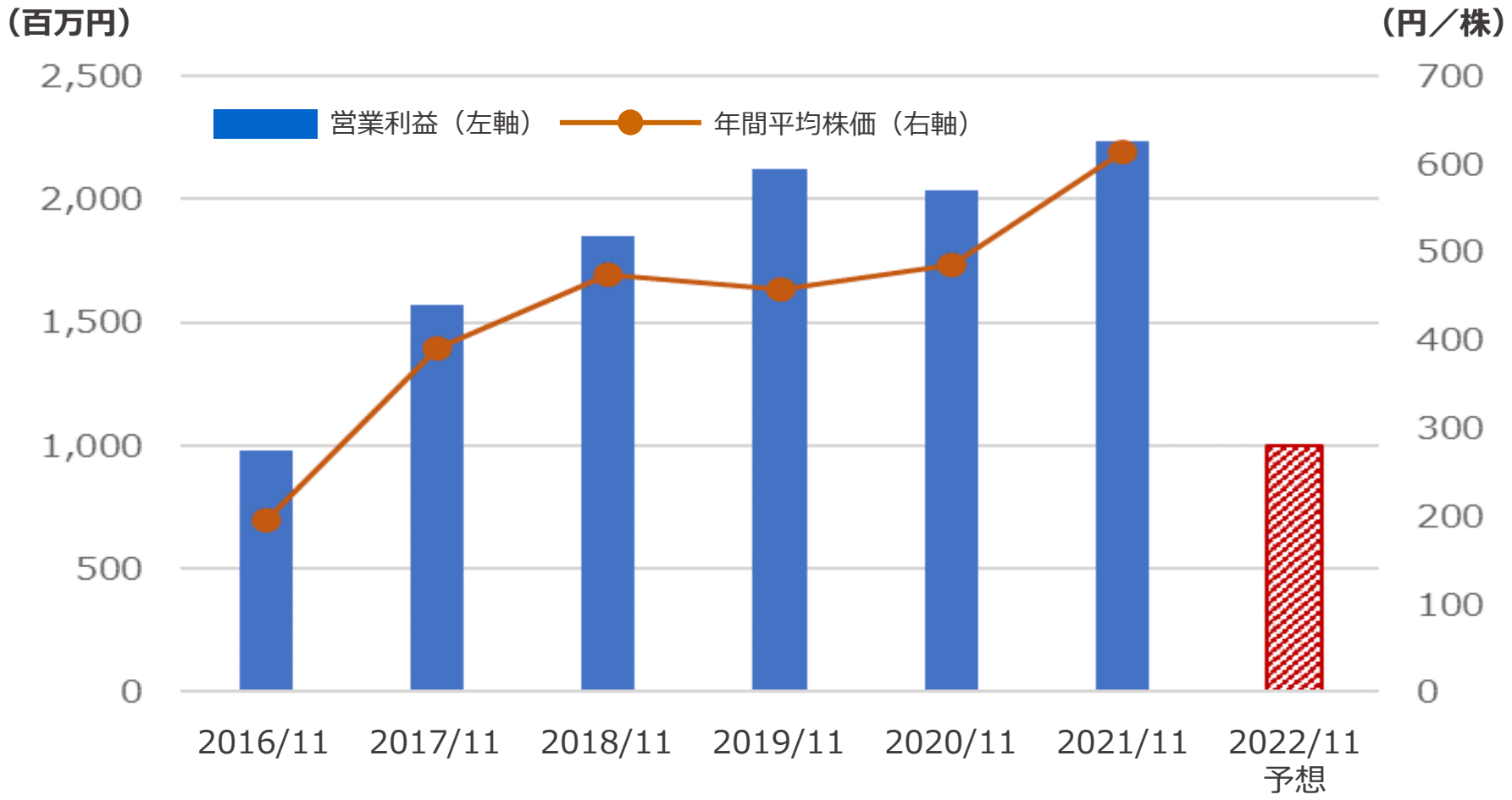
# ⑥畑澤さんはなぜ辞任したの？

⑦東証再編で株主優待をやめる企業が続出しているが、
御社は今後の株主優待の取り扱いを
どのように考えているか？

# ここから株主還元方針についてご説明します

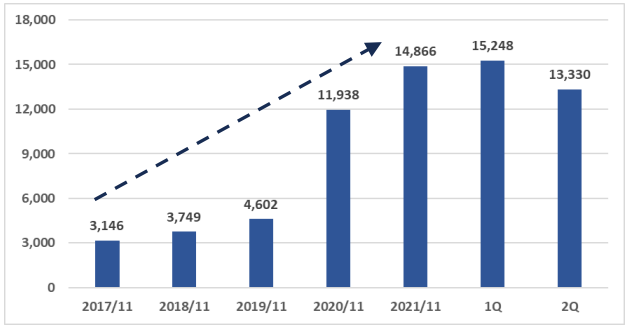
# 年間平均株価と営業利益の推移

年間平均株価、営業利益とも順調に推移

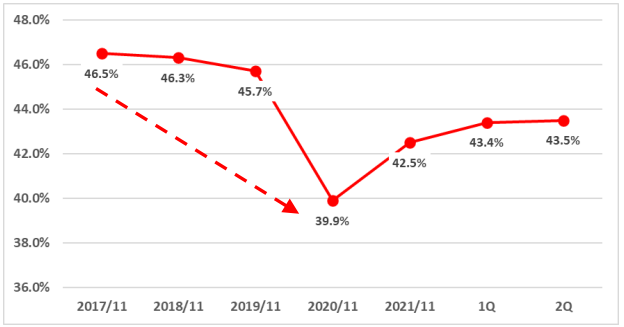


# 自己株式の取得の背景

■新株予約権行使の際の背景




M&Aにより借入金増




M&Aにより自己資本比率低下

成長投資の資金調達が必要

**新株予約権行使**
- ・財務体質改善
- ・資金調達（成長投資）

- ・財務体質改善は継続して行うが自己資本比率等は良化
- ・成長投資の資金調達完了

# 自己株式の取得を行います

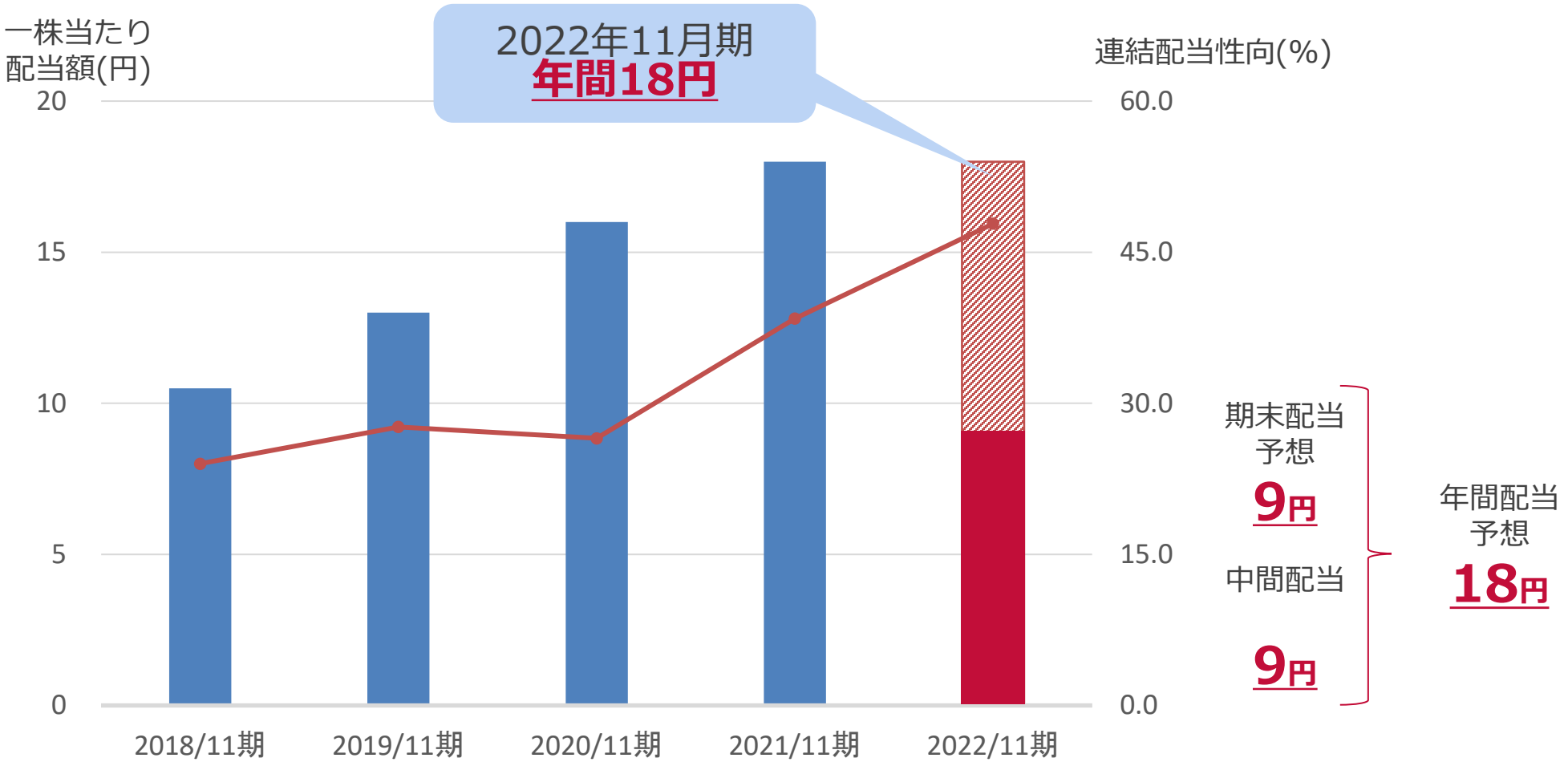
3億円を上限として、下記の通り自己株式の取得を実施します。

**自己株式取得**
**・業績下方修正に伴う株価毀損リスク低減**
**・株主還元の充実と資本効率の向上及び経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行するため**

| | |
|---|---|
| (1) 取得する株式の種類 | 当社普通株式 |
| (2) 取得する株式の総数 | 900,000株（上限） |
| (3) 株式の取得価額の総額 | 300,000,000円（上限） |
| (4) 取得する期間 | 2022年７月14日～2022年９月30日 |
| (5) 取得方法 | 東京証券取引所における市場買付け |

# 配当方針

当期は前期と同額の18円配当を予定。



- 本資料の予想は、発表日現在において入手可能な情報及び一般的に認識されている経済・社会等の情勢に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後の経営環境の変化等様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。
- 本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれています。

お問い合わせ窓口
アステナホールディングス株式会社
経営企画部
Tel:03-3279-0481

# アステナホールディングス株式会社（8095）
## IRセミナー 2022年11月期第2四半期(2021年12月～2022年5月)

ご質問はQ&Aから
受け付けております。